

自動車用バッテリーを取り巻く環境の変化

自動車用バッテリーは高性能化が進む中で、「バッテリーの寿命は、なぜ昔から約3年と変わらないのか」と疑問に思っている方もいらっしゃるのではないでしょうか？今号ではその理由をご紹介します。

●車両の使用状況

従来

通勤やレジャーなど遠出が主流

走行距離が長く、走行中の発電機会が多く確保されるため、バッテリーは十分な充電量を維持できていました。



近年

チョイ乗りが主流で、約3割がサンデードライバー

走行距離が短かったり、車両の稼働状況が少ないため、走行充電の機会が限られ、バッテリーは放電気味使用となります。



●走行中のバッテリー負荷

従来

エンジン始動後の、バッテリー負荷は少ない

●従来車

エンジン始動後は常にオルタネーターが発電しているため、バッテリーは満充電に近い状態を保つことができます。



オルタネーター



近年

車両燃費改善のため、エンジン始動後もバッテリーの負荷は増加

●充電制御車

走行状況により発電が制御され、走行中も常に放電と充電を繰り返しています。

●アイドリングストップ車

アイドリングストップからの頻繁な再始動により、バッテリーに大きな負荷がかかっています。

●駐車中の電力消費

従来

作動機器が少なく、駐車中の電力消費は少ない

ラジオのメモリーを保持する程度で、駐車中に作動する機器も限られていました。



近年

駐車中に電気を使う装備の増加により、電力消費が増加

パワースライドドアやセキュリティ、通信、スマートキーなどの駐車中に電気を使う装備が増えています。



Point



- 近年の自動車バッテリーは、車両の使用状況の変化、走行中のバッテリー負荷、駐車中に作動する装備の増加により、従来より厳しい環境となっています。
- こうした自動車用バッテリーを取り巻く環境の変化に合わせて、性能を向上させることで寿命を保っています。

